## I 総括表

#### 1. 基本的事項 [法人の基本情報を把握]

-								
ı	法人名称	公益財団法人山形県臓器移植推進機構			県所管課・担当	医療政策課・	地域医療対策	担当
ı	代表者	理事長 間中英夫(山形県医師会)	所在地	山形市松波二丁目8	3番1号(山形県係	建康福祉部医療	政策課内)	
	基本財産(資本金)	199,173 千円		146,338 千円	県出資比率	73.5	%	
	設立時期	平成3年7月23日		HPアドレス http://ww	/w/yama-zou.jp/	/		

## 2. 事業の意義の検証 [設立目的や事業内容等から事業の意義を検証] (様式2関係)

設立目的 [定款記載内容等]	臓器移植に関する知識の普及啓発を行うとともに、医療機関の移植体制及び臓器移植が円滑に行われるための支援を行うこと により、臓器移植の推進を図り、もって県民の医療の向上及び福祉の増進に寄与する。					
主な 事業内容・ 事業実績 (注1)	(1)臓器移植普及啓発事業 ・イベント等でのリーフレット配付、普及啓発推進月間における絵画展示、高等学校における「いのちの学習会」の開催等 (2)臓器移植推進事業 ・臓器移植コーディネーターの配置、臓器移植あっせん業務 (3)臓器提供体制整備事業 ・医療従事者への普及啓発・研修会の実施、臓器提供発生時の病院内シミュレーション支援、外部研修会への参加支援					
類型	■ 県のアウトソーシング先 □ 自律的サービスの提供主体 □ 国制度や枠組みでの事業実施 □ 他団体主導					
事業の意義	①公社等の必要性の視点 ②県の関与の必要性の視点 ③代替可能性の視点					
の検証(注2)	■ 有 □ 無	■ 有 □ 無	■有□無			

<sup>(</sup>注)1.主な事業内容・実績は、主要事業とその実績を箇条書き等で簡潔に記載すること。

#### 3. 経営健全性等の検証

## 3-1. 主な財務・経営指標 [特に注意すべき財務・経営上の項目を把握](様式3-1関係)

		項目	R5年度(千円)	チェック		
	資産合計		資産合計 204,19		204,194	$\setminus$
財	負債合計		247	$\setminus$		
財務状況		うち借入金	0	$\setminus$		
況	正味財産合計(注) [純資産(負の場合、債務超過)]		203,948	ОК		
		:財産-基本財産等(注) 益剰余金又は累積損失]	4,775	ОК		

	項目	R5年度(千円)	チェック
	経常収益	8,209	/
経	経常費用	8,207	$\setminus$
経営状況	当期経常増減額 [経常損益]	△6,374	$\Big/$
況	当期経常外増減額 [経常外損益]	0	$\setminus$
	当期一般正味財産増減額(注) [当期純損益]	△6,374	純損失あり
(32)	たね ルニ しょがかなし <b>イ</b> ロスプロスル	存出して 単年 はままり	· -

(注)債務超過又は累積損失ありの場合、財務状況の把握、注意が必要。

純損失計上が継続している場合は、経営状況の把握、注意が必要

財務状況については累積損失がなく健全である。経営状況については、正味財産の減額が生じているが、保有 財務・経営状況の検証 有価証券の時価評価額の変動によるもので、当法人の経営に影響を及ぼすものではない。

(注)公社等の財務・経営状況に関する所管課による検証結果を記入すること。

3-2. 主な県の関与状況 [県の財政的リスクや人的関与状況を把握](様式3-2関係)

<u> </u>	D C CAN CONTROL OF THE PROPERTY OF THE PROPERT	
項目	R5年度(千円,%)	チェック
損失補償・債務保証残高(注)	0	OK
短期貸付金残高	0	
長期貸付金残高	0	OK
債務の元利償還金に対する 県(補助金・貸付金)依存率(注)	0.0%	ОК

	項目	R5年度(千円,%)
県の	D財政支援等合計	0
	うち補助金	0
	うち委託料	4,144
県	総収入に占める 財政支援等の割合	50.4%

<u>3-</u>	-3.	
	月経営 十画σ	 
	有	無

(注) 県が損失補償等をしている又は債務の元利償還金への県の関与が大きい(10%以上)場合、経営健全性

組織体制(人)	常勤役員	うち県職員	うち県退職者	正職員	うち県職員	うち県退職者
(R6年7月現在)	0	0	0	0	0	0

県の責務としての臓器移植を専門的かつ効率的に推進していくために、引き続き事業委託による実施が適当で 県の関与の必要性の検証 ある。

(注)公社等に対する県の財政支援・人的支援の必要性について、その理由を含め、所管課による検証結果を記入すること。

## 費用対効果の検証(地方創生に資する公社等の有効活用を含む)(様式4関係)

普及啓発事業により県民の理解促進・意識向上につながっており、体制整備事業により医療従事者のスキルアップ、病院内の体制強化が図ら れている。これらの事業は、専門職(臓器移植コーディネーター)1名、事務員1名、計2名の必要最小限の体制により、支出を極力抑えながら実 施しており、費用に見合う効果が現れている。

<sup>2.</sup>事業の意義の検証は、各視点(①~③)に基づき、事業の意義の有無について、該当するものいずれかを■とすること。

<sup>(</sup>注) 1.当該事業を公社等が行うことが最も効率的で効果的であるかどうか、また、費用対効果の観点から、費用(県による出資、補助金、その他の財政支出)に見合う効果が出ているかなどについて、事業の意義の検証及び経営健全性等の検証結果も踏まえながら、所管課による検証結果を記入すること。
2.費用対効果が乏しいと認められる公社等は、公社等のあり方について抜本的改革を含めた見直しを行う必要がある。

<sup>3.</sup>費用対効果の検証のうち、特に、地方創生に資する内容がある場合、「地方創生に資する公社等の有効活用」の観点を含め記入すること。

5. 見直し工程表

<u> </u>	兄旦し工性衣						
	項目	見直し内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	事業の意義						
	経営健全性						
Ш	-1 財務・経営						
	収入確保	安定的な資産(国債)の運用					<b>→</b>
	支出削減	必要最小限の人員体制での事業執行					<b></b>
	その他収支改善						
Ш	-2 県の関与						
	<b>叶</b> 北土运生	臓器移植コーディネーターの設置委託					<b>—</b>
	財政支援等						
	人的支援等						
Ш	-3 経営健全化・	財政リスク					
	債務超過						
	累積損失						
	当期純損益赤字2期 以上かつ今後3期以 内に累積損失が生じ る見込み						
	県の損失補償等						
	県の長期貸付金						
	元利償還金への 県依存率10%以上						
	中期経営改善計画 等の策定						
IV	費用対効果	必要最小限の人員体制の維持と臓器移植院内コーディネーターとの更なる連携					<b>→</b>
V	その他						
	情報公開	ホームページで公表					<b>-</b>
	その他						

(注) 各項目について、検証結果等を踏まえた今後の見直し内容及びスケジュールを記入すること。

## Ⅱ 事業の意義の検証

1. 公社等の設立目的・事業内容等 [当初の設立目的、現在の事業内容・事業実績を把握]

設立時期·沿革	・平成3年7月23日「財団法人やまがた腎パンク」として設立5平成13年5月1日「財団法人山形県腎等臓器移植推進機構」に名称変更5平成24年4月1日「公益財団法人山形県臓器移植推進機構」に移行
出資団体 [名称、金額、割合]	・山形県 146,338千円(73.5%) ・市町村 48,917千円(24.5%) ・民間団体(県医師会、ライオンズクラブ等) 3,918千円(2.0%)
設立目的 [定款記載内容等]	臓器移植に関する知識の普及啓発を行うとともに、医療機関の移植体制及び臓器移植が円滑に行われるための支援を 行うことにより、臓器移植の推進を図り、もって県民の医療の向上及び福祉の増進寄与する。
類型(注1,2)	■ 県のアウトソーシング先 □ 自律的サービスの提供主体 □ 国制度や枠組みでの事業実施 □ 他団体主導
事業内容 •事業実績 (注3)	<ul> <li>(1)臓器移植普及啓発事業         ○県内の市町村の二十歳の祝賀会や健康まつりなどのイベントにおいて、リーフレット等を配付。         ○10月の「臓器移植普及推進月間」を中心に、県内の著名スポットをグリーンにライトアップするキャンペーンの実施や、移植医療関係団体と合同で、臓器移植を受けた子供の絵画展(ギフトオブライフ)などの啓発事業を実施。         ○地域プロスポーツとの連携により、試合会場等で啓発活動を実施。         ○苦者の移植医療に対する理解を深めるため、高等学校、大学、看護師養成所において、「いのちの学習会」を開催。講師として臓器移植コーディネーターを派遣。(R5年度:7校288人)</li> <li>(2)臓器移植推進事業         ○普及啓発等事業を担う専門スタッフとして、「臓器移植コーディネーター」を配置         ○臓器提供事案発生時に、あっせん業務として、家族への説明及び関係機関との連絡調整を実施。</li> <li>(3)臓器提供体制整備事業         ○臓器移植に関する医療従事者の知識・理解を深めるため院内研修会の開催を支援するとともに、病院間の連携を図るため連絡会議を開催。         ○病院内における臓器提供事案発生時のシミュレーションや研修会の実施を支援         ○医療従事者が臓器移植に関する必要な知識を習得するための外部研修会や学会への参加を支援。</li> </ul>

(注) 1.類型は、公社等の事業内容や出資状況等を踏まえ、該当するものいずれかを■とすること。

2.類型の考え方

【県のアウトソーシング先】 :県のアウトソーシング先として設立(県の業務の受け皿);「公の施設」の管理や県の業務の委託先 など

【自律的サービスの提供主体】 :自律的サービスの提供主体として設立(サービスの主体);財産(基金)を活用した公益サービス提供、公共的事業を行う株式会社 など 【国制度や枠組みでの事業実施】:国の制度や枠組みに基づき全国的に設立(政策の担い手);法令等に基づき政策の担い手として位置づけられている団体 など

【他団体主導】 :他団体主導(運営);県が主導的に運営していない公社等

3.事業実績は、活動指標(各公社等の目的の達成度や事業成果を定量的に評価できる項目)を設定のうえ、その評価、今後の見込み、見直し内容を含めて記入すること。

2. 事業の意義の検証 [社会経済情勢等の変化等を踏まえた公社等の必要性の有無の検証]

視点	事業の意義(注) (公社等の必要性)	説明(現状及び今後の見直しを踏まえた検証結果)
①公社等の必要性 設立目的を達成済又は設立 目的が社会経済情勢の変化 により希薄化していないか	■ 有 □ 無	全国で約15,000人の移植希望者に対し、臓器提供件数は年間約100件と、極めて少ない状況にある。 臓器別では腎臓の移植希望者が多い。県内で腎不全のために人工透析を受けている患者は令和5年12月末で2,767人で年々増加傾向にある。また、本県内では90人が腎臓移植を希望している(R5.12月末現在)が、提供が少なく、待期期間が長期化している。こうした現状を改善するためには、引き続き、臓器移植に関する知識の普及啓発を行うとともに、医療機関における体制整備を行う必要がある。
②県の関与の必要性 「県の出資者としての立場や出 資の意図が希薄化していない」	■有□無	臓器移植推進法第3条の規定により、移植医療に対する県民の理解促進を図ることは、県としての責務である。そのため、県が中心となり、県内市町村等とともに出資・設立したものであり、引き続き、その立場を踏まえた積極的な関与が必要である。
③代替可能性 県が直接実施する場合や民営 化、他公社等との統合と比較し 引き続き公社として行うことが 最も適当か	■有□無	臓器移植は極めて高い専門性が求められる。また、臓器移植の普及啓発やあっせんを行う唯一の全国組織である「日本臓器移植ネットワーク」との連携が必須であり、密接かつ柔軟に連携するためには、専門機関へのアウトソーシングが効果的である。 アウトソーシング先としては、事業目的の公益性の高さから、引き続き当該財団法人とすることが最も適切である。

(注) 各視点(①~③)に基づき、必要性の有無のいずれかを■とすること。「説明」欄には、現状及び今後の見通しを踏まえた所管課による検証結果を記入すること。

3. 公社等の抜本的改革の内容等 [上記検証の結果、1つでも「無」がある場合は記入]

		-	
終了予定時期	-	終了時期設定の考え方	-

<sup>(</sup>注)事業の意義が無い場合、公社等の民営化・廃止等を含む抜本的改革が必要となることから、その内容と今後の方向性を記入すること。また、終了予定時期と終了時期設定の考え方を記入すること。

# Ⅲ 経営健全性等の検証

Ⅲ-1. 財務•経営状況

(注)(1)(2)は公益法人の会計基準を前提とした構成であるため、株式会社等については、適宜項目を修正すること。

(1)財務状況 [貸借対照表により財務体質を把握]

(単位:千円,%)

			項目	R3年度	R4年度	R5年度	対前年度増減額	対前年比	備考(増減割合が10%以上の場合その理由等)
		流動	資産	3,744	2,259	2,397	138	106.1	
		固定	資産	211,579	207,821	201,797	△6,024	97.1	
			うち基本財産	211,360	205,550	199,173	△6,377	96.9	
			うち特定資産	0	2,052	2,405	353	117.2	※寄付金の増額
	資産	合計		215,323	210,080	204,194	△5,886	97.2	
		流動	負債	182	110	247	137	224.5	※年度末休日のため未払金等の増
貸			うち借入金	0	0	0	0		
借		固定	負債	0	0	0	0		
対			うち借入金	0	0	0	0		
照	負債	合計		182	110	247	137	224.5	
表		指定	正味財産	2,108	2,052	2,405	353	117.2	
			うち基本財産充当額	0	0	0	0		
			うち特定資産充当額	0	2,052	2,405	353	117.2	※寄付金の増額
		一般	正味財産	213,033	207,917	201,542	△6,375	96.9	
			うち基本財産充当額	213,714	205,550	199,173	△6,377	96.9	
			うち特定資産充当額	0	0	0	0		
	正味財産合計 [純資産(負の場合、債務超過)](注1)		215,141	209,970	203,948	Δ6,022	97.1		
			未財産合計	215,323	210,080	204,195	△5,885	97.2	
[剰余	金又は	累積損	<b>財産等</b> 失](注1,2) 黒建場生まける場合 (禁=	3,781	4,420	•		108.0	

<sup>(</sup>注) 1.「債務超過」「累積損失あり」の場合、様式3-3「経営健全性・財政リスクの検証」を記入すること。

#### (2)経営状況 「正味財産増減計算書(損益計算書)により経営状況を把握]

(単位:千円,%)

\ _	<b>4) 注 当 1人 ル</b> [正味財産培漑計算者 (損益計算者)により経営状況を指推]										
			項目	R3年度	R4年度	R5年度	対前年度増減額	対前年比	備考(増減割合が10%以上の場合その理由等)		
		経常	収益	7,245	7,550	8,209	659	108.7			
			基本財産等運用益	2,584	2,736	2,660	△76	97.2			
			受取会費	0	0	0	0				
正			事業収益	0	0	0	0				
味			受託収益	3,915	3,915	4,144	229	105.8			
財	•		受取補助金等	746	895	1,333	438	148.9	※事業増加に伴う、活動助成金受取額の増加		
産			その他経常収益	0	4	71	67	1,775.0	※寄付金からの一部事業費振替		
増		経常	費用	8,147	7,858	8,207	349	104.4			
減計			事業費	6,735	6,422	6,902	480	107.5			
算			管理費	1,411	1,436	1,305	△131	90.9			
書			経常費用のうち人件費(再掲)	6,093	5,943	5,960	17	100.3			
			経常費用のうち物件費(再掲)	1,751	1,746	2,076	330	118.9	※コロナ明けによる活動費の増加		
損			経常費用のうち減価償却費(再掲)	0	0	0	0				
益		評価	損益等	△5,092	△5,810	△6,376	△566	109.7			
計	当期	経常	<b>増減額</b> [経常損益]	△5,994	<b>△</b> 6,118	△6,374	△822	104.2			
算		経常	外収益	0	1,003	0	△1,003	0.0	前年度が会計修正処理のために一時的に発生したもの		
書	•	経常	外費用	0	0	0	0				
$\sim$	当期	経常	外増減額 [経常外損益]	0	1,003	0	△1,003	0.0			
		<b>一般</b>  純損益	<b>正味財産増減額</b> ③(注)	△5,994	Δ5,115	△6,374	Δ1,259	124.6			
	当期	指定	正味財産増減額	449	△55	353	408	△641.8			
	当期	正味	財産増減額	△5,545	△4,453	△5,455	△1,002	122.5	投資有価証券(国債)の時価評価によるもの		
(注)	11 HE 64: 1	号件 おこ	押い し微はかっ合然の押い	中に田徳場と		あがちて担人	. +±++o o[	日本エケカカリフカ、東	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		

<sup>(</sup>注) 当期純損失が2期以上継続かつ今後3期以内に累積損失が生じるおそれがある場合、様式3-3「財政的リスケ・費用対効果の検証」を記入すること。

(3)財務・経営状況の検証及び見直し内容 [財務・経営状況について検証し、収支改善や経営の効率化のための取組内容を把握]

	項目	検証結果・見直し内容(具体的に記載すること)
財利	務·経営状況の検証 	・財務状況は累積損失がなく健全。経営状況は正味財産の減額が発生しているが、保有する投資有価証券の時価評価額の変動によるもので、当法人の経営に影響を及ぼすものではない。
	長期借入金 (注)	
	収入確保 (利用者負担の見直し、 債権回収等)	・基本的な収入源は投資有価証券(国債)の運用益であるため、安定的運用に努めていく。
見直	支出削減 (給与の見直し、組織 機構のスリム化等)	・平成18年度から実施している勤務時間短縮による人件費の削減、役員の無報酬の取組みを継続するとともに、必要最小限の人員体制での事業執行に努めていく。(令和2年度から事務員1名の勤務時間を短縮し、人件費の削減を図っている。)
内容	その他収支改善や 経営効率化の取組	
	これまでの実績	・役員は無報酬 ・職員については、平成18年度から勤務時間を短縮することで人件費の縮減を図っており、専門職(臓器移植コーディ ネーター)1名、事務員1名、計2名の必要最小限の体制とすることで、支出を抑えている。

<sup>(</sup>注)「財務・経営状況の検証」のうち、長期借入金については、「償還完了(見込み)時期」「償還財源」を明らかにしたうえで、問題が無いか検証した結果を記入すること。

<sup>2.「</sup>基本財産等」は、当該公社等の財産的基礎をなすものとして、資本金、基本財産、特定資産など公社等ごとに個別に判断して算出する必要があることに注意。 従って、「正味財産―基本財産等」は、公社等の活動により生じた正味財産(純資産)の増加(減少)部分に相当するものとして、剰余金又は累積損失を表すものであること。

## 公社等見直し計画

公益財団法人山形県臓器移植推進機構

#### Ⅲ-2. 県の関与状況等

事業類型: アウトソーシング

(1)県の財政的関与状況 [県による公社等への財政支援状況を把握]

(単位:千円,%)

項目	R3年度	R4年度	R5年度	対前年度増減額	対前年比	項目	R3年度	R4年度	R5年度	対前年度増減額	対前年比
出資(出えん)金	155,295	151,025	146,338	△4,687	96.9	補助金				0	
損失補償(債務保証)残高(注)				0		委託料	3,915	3,915	4,144	229	105.8
短期貸付残高				0		その他				0	
長期貸付残高				0		合計				0	
元利償還金に対 する県依存率(注)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0P		以入に占める県の 政支援等の割合	54.0%	51.9%	50.4%	△1.5P	

(注)「損失補償等の残高がある」又は「元利償還金に対する県依存率10%以上」の場合は、様式3-3「経営健全性・財政リスクの検証等」を記入すること。

#### (参考)国・県・市町村その他の財政的関与状況(R5年度決算)

(単位:千円,%)

項目	合計	国	割合	県	割合	市町村	割合	その他	割合	「その他」の名称
長期借入金残高	0									
補助金	1,333	1,333	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
委託料	4,144	0	0.0%	4,144	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	

## (2)県の財政的関与状況詳細

(単位:千円)

	項目	R4年度	R5年度	R6年度	備考(増減理由、新規・継続の別等)
【出》	資・出えん金】	0	0	0	
【損約	夫補償·債務保証】	0	0	0	
【短其	胡貸付】	0	0	0	
【長邦	胡貸付】	0	0	0	
F 1-6 =			_		
【補助	功金】 	0	0	0	
<b>『</b> 名+	   <b> </b>	0	0	0	
【只7	<u>日並、云貝守』</u>	0	0	0	
【季』	 <del>〔</del> 料】	3,915	4,144	4,544	
	臓器移植コーディネート業務委託	3,915			
		3,010	1,144	1,011	
	合計額	3,915	4,144	4,544	

<sup>(</sup>注) 欄が不足する場合は、適宜欄を挿入して記載すること。委託料は、契約相手方の決定方法及び指定管理者に関する事項も記入すること。

## (3)県の人的関与状況 [役職員の状況(注1)等を把握]

(単位:人)

( = ) also a subled of lates ( Fightest a same or ) A Clear										
	項目	R5年度	R6年度	増減	項目		R5年度	R6年度	増減	
常勤	役員	0	0	0	非常	勤役員	9	9	0	
	うち県職員	0	0	0		うち県職員	1	2	1	
	うち県退職者	0	0	0		うち県退職者	4	3	Δ1	
正職	員	0	0	0	非正	職員	2	2	0	
	うち県職員	0	0	0		うち県職員	0	0	0	
	うち県退職者	0	0	0		うち県退職者	0	0	0	
						職員の正職員 算人数(注2)	2	2	0	

- (注) 1.役職員の人数は、各年7月1日現在の人数を 記入すること。
  - 2.非正職員の正職員換算人数は、(非正職員の 所定の総労働時間数)÷(正職員の所定の労 働時間数)で算出し、合計を記入すること。

#### (4)役員報酬の状況

対象役	員数	報酬総額(R	85年度)	(注)1.対象役員数は、役員のうち無報酬のものを除く。
0	名	0	千円	2.対象役員数が1名の場合、当該個人年収が明らかになるおそれがあることから、報酬金額は掲載しない。

## (5)県の関与の必要性の検証及び見直し内容 [県の財政支援等の必要性の検証、必要に応じ、見直し内容を把握]

・県の責務としての臓器移植の推進を専門的かつ効率的に実施していくために、引き続き委託による実施が適当である。

・県全体の医療の向上を図るため、本県の医療政策を統括する職員が役員(非常勤)に就任しており、引き続き当該人的支援が必要である。

<sup>(</sup>注) 公社等に対する県の財政支援・人的支援の必要性や組織機構のスリム化等について、所管課の検証結果及び見直し内容等を記入すること。

公社等見直し計画 公益財団法人山形県臓器移植推進機構

## Ⅲ-3. 経営健全性・財政的リスクの検証等

(1)経営健全性・財政的リスクの検証「経営健全化等の努力が必要又は県にとって財政的リスクがある公社等について、今後の対応方針を確認]

	,,,,,,,,,,	-1	15 4 HAL		A AV. — I				
項目		該当の	有無(注)	左記いずれかに該当有の場合その理由	今後の対応方針				
①債務超過(正味財 マイナス)に陥ってい		□有	■無						
②累積損失(正味財) 財産等がマイナス)が生 ないか		□有	■無						
③当期純損益赤字 以上継続し、かつ 3期以内に累積打 生じるおそれが無	⊃今後 損失が	□有	■無						
④県の損失補償、 証を受けていない		□有	■無						
⑤県から長期貸付 けていないか	金を受	□有	■無						
⑥債務の元利償還 源の10%以上を県 金・貸付金等に依 ていないか	具補助	□有	■無						
	(注)各項目について該当の有無のいずれかを■とすること。いずれかの項目で「有」に該当がある場合、指導指針第5(3)により経営健全性が無い又は県にとって財政的リスクがあるものと判断することとなるため、上記項目に該当することとなった理由、解消時期等の明示を求めたうえで、必要に応じて中期経営改善計画の策定を求めるなど、経営健全化に向けた見直しを行うこと。								
(2)中期経営改善計画等の策定状況 [経営健全化に向けた見直しを含む中期的な計画の策定状況を確認]									
策定の有無		期間	~ ~ I/\//	・「性質性主にに同いた光道して古む中郷のない画の衆だ	マング の まませい				
NAC - A HAM	нП	**1161		T 040411 1.1					
□有■無	^	<b>.</b>							

## Ⅳ 費用対効果の検証(地方創生に資する公社等の有効活用を含む)

#### 1. 費用対効果の検証

公益財団法人山形県臓器移植推進機構は、臓器移植の推進により県民の医療の向上を目的として、県が中心となり、市町村及び民間団体と 共同で出資し設立した法人であり、国債の運用益と県などからの委託料や助成金により啓発事業や臓器提供体制整備事業等を行っている。 啓発事業では、県内市町村の二十歳の祝賀会でのリーフレットの配布(約10,000部)、グリーンライトアップキャンペーン(R5:県内9カ所)、移植 を受けた子どもたちの絵画展(R5:7カ所)、各種イベントの機会を捉えた啓発活動等を通して広く県民への啓発を行っている。また、高等学校、 大学及び看護師養成所(R5:7校)において、臓器移植をテーマとした「いのちの学習会」を開催(R5:288人受講)。アンケート調査では、「臓器移 植について家族と話してみたい」「意思表示(臓器提供する・しない)をすることの大切さがわかった」など、参加者の理解促進・意識向上につな がっている。

臓器提供体制整備事業では、医療従事者を対象とした院内研修会の実施や臓器提供発生時のシミュレーションの実施を支援。

また、医療従事者が臓器移植に関する必要な知識を習得するための外部研修会、学会への参加を支援している。

これらの事業は、専門職である臓器移植コーディネーター1名と事務員の1名の計2名が行っており、必要最小限の人員体制とすることで支出 を抑えている。

以上により、当該法人については、費用に見合う効果が現れていると認められ、公益財団法人としての役割を果たしていると考える。

- (注) 1.第4(事業の意義の検証)、第5(経営健全性等の検証)を踏まえ、当該事業を公社等が行うことが最終的に最も効率的で効果的であるかどうか、費用対効果の観点から、費用(県による
  - 出資、補助金その他の支援)に見合う効果(県民サービスや県民福祉の向上につながる成果)が出ているかなどについて、以下の点を参考に総合的に検証し、記入すること。

  - ・事業実績が県の出資屋がに死ら、即待される効果を上げているか。 ・事業成果が費用(県による出資、補助金、その他の財政支出)に見合っているか
  - ・公社等の運営(事業手法やサービス提供方法)が効率性等に十分配慮したものか。
  - 現行の手法について、採算性や持続可能性の点で問題はないか。
  - 2.上記、費用対効果の検証のうち、特に、地方創生に資する内容がある場合には、以下別枠(1-2. 地方創生に資する公社等の有効活用)に記入すること
  - 3.費用対効果が乏しいと認められる公社等は、公社等のあり方について抜本的改革を含む見直しを行う必要があるため、以下(2. 費用対効果に係る見直し内容)を記入すること。

#### 1-2. 地方創生に資する公社等の有効活用 [健全な経営を前提とした公社等の有効活用方法を検討]

有効活用の視点	内容
①地方公共団体の区域を超えた活動 複数の地方公共団体がそれぞれの区域を超えて共同で事業を実施するための 簡便で有効な手法の一つとして、機動的、弾力的な事業実施が可能。	
②民間企業の立地が期待できない地域における事業実施 民間企業の立地が期待できない中山間地域や離島などの地域において、産業振興、地域活性化等に取組むための有効な手法となる場合があり、民間の資金やノウハウの適切な活用による地域活性化等に取組むことが可能。	-
③公共性、公益性が高い事業の効率的な実施 公社等が民間企業と同様の機動的、効率的な経営手法で行政の補完・代行機 能を果たすことにより、地方公共団体が直接実施するよりも効率的又は効果的に 行うことが可能。特に、民間企業では公共性、公益性が担保できない事業におけ る確実かつ円滑な進捗が可能。	

#### 2. 費用対効果に係る見直し内容

引き続き、必要最小限の人員体制を維持するとともに、臓器提供可能病院(8施設)の臓器移植院内コーディネーターとさらに連携を深めていく ことにより、啓発事業や体制整備事業等を効率的・効果的に進めていく。

(注) 検証の結果、「費用対効果が乏しい」と認められる公社等は、公社等のあり方について抜本的改革を含めた見直し内容(又は今後の方針)を記入すること。 その他の公社等にあっては、当該公社等の運営をより効率的かつ効果的に実施するための見直し内容(又は今後の方針)を記入すること。

# V その他取組状況

1. 情報公開の取組状況 [県民に対する情報公開が積極的に行われているか確認]

・・ 一十人 と 1/13 マンコス・1年 1/17 10 [ 宋人にころ) テンロ [ 宋人にころ) では 日本 と 1/17 10 ( 0 10 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20										
ホームページアドレス: http://www/yama=zou.jp/										
項目	公表の有無(注)	公表の手段(公表していない場合はその理由、公表予定時期等)								
定款(公社等の設立目的)、事業内容	■有□無	ホームページ上で公表								
事業報告書、貸借対照表、正味財産増減計算書(損益計算書)、事業計画書、その他財務諸表	■有□無	ホームページ上で公表								
中期経営改善計画等	□ 有 □ 無 策定無									

2. 監査の結果等 [県や各指導監督機関による監査等の結果とその対応が適切になされているか確認]

項目	実施年月	実施機関等	監査等の結果(指摘事項等)	左記に対する対応状況
法令等による 指導監査	R5.2.1	県医療政策課	特段の問題は認められなかったが、以下の点を指摘 ①評議員会招集通知時に理事会で承認を受けた計算 書類等を提供すること。 ②決算作成体制の見直し	①事務引継ぎの徹底 ②令和4年度決算より会計事務所 に作成を委託
県監査委員監査	R4.11.11	県監査委員	決算処理が適正でないもの 募金収入に係る振込手数料の勘定科目を誤って計上し たため、財務諸表の一部に誤りが生じたもの	令和4年度決算より会計事務所に 作成を委託
外部監査	ı	ı	_	_
第三者評価	H29.9	山形県行政 支出点検・ 行政改革推 進委員会	臓器移植に対する理解促進を図り、継続	臓器移植普及推進月間(10月)のイベントや、市町村成人式、病院まつり等で普及啓発活動を実施する予定。また、H29年度から新たに開催した「トップセミナー」も継続して実施している。

(注)各監査結果について、是正を要する指摘等を受けた場合はその内容と、それに対する対応状況について記入すること。

3. その他取組状況・特記事項		
	-	

(注)本計画に記載していない公社等見直しに係るその他の取組や、特に記載を要する事項があれば、記入すること。

<sup>(</sup>注) 各項目について公表の有無のいずれかを■とすること。公表していない場合、その理由を明らかにし、公社等に対しインターネット等の活用による公表を含め、情報公開を積極的に行うよう助言・指導すること。また、公表資料について、添付すること。